



青木村子どもはつらつネットワーク通信

令和元年度 第169号 10月1日
青木村子どもはつらつネットワーク事務局発行



8月に行われた「国際交流生徒海外派遣」「黒板ジャック」についてお伝えします。



青木中学校は、1999年からオーストラリアのワラグルにある私立高校マリスト・サイオン・カレッジと毎年交流を行っています。青木中学の生徒によるオーストラリア訪問とマリスト校生徒の青木村訪問を毎年交互におこなっており、今年は青木中の生徒15名が7月31日から10日までの11日間、交流や観光に行ってきました。引率された英語科の先生にお話しをお聞きしました。

第20回交際交流オーストラリア派遣を体験して

青木中学校国際交流係 野澤 瞳

令和元年7月31日から8月10日にかけて、青木中学校生15名と宮崎教頭先生と共に、オーストラリアの姉妹校、マリスト・サイオンカレッジで学ぶ機会をいただきました。このオーストラリア訪問を通じて、たくさんを感じ、学ぶことができました。

8月1日、メルボルン空港からバスで40分ほど走ると、マリスト・サイオンカレッジが見えてきました。日本語のエリー先生、エリース先生が手を振って私たちを出迎えてくださいました。その姿が見えた時、一年ぶりに二人に再会できた嬉しさと、全員が無事にマリスト・サイオンカレッジに到着できた安心感とで、心がいっぱいになりました。ここで、日本語アシスタントの金澤明子さんと、もう一人の日本語クラスのマンディー先生ともお会いしました。それぞれのホストファミリーの皆さんが青木中生を迎えにきてくれました。ホストファミリーと各家庭へ向かっていく青木中生は、わくわくした表情だったり、緊張した表情だったり…。中には、不安そうにこちらを振り向き振り向きながら行く生徒もいました。私は、ホストファミリーと一緒に下校していく



青木中生たちを、「楽しんでね。」と声をかけながら見送り、このホームステイの間中、生徒たちがどんな経験をし、どんなことを思うのか、とても楽しみに感じていました。

翌8月2日の朝、マリスタ校の青木中生の控室で待っていると、ホストファミリーと一緒に生徒たちが続々と登校し、お互いに、ホストファミリーとどんな半日を過ごしたのか話していました。「英語が速くてよく聞き取れないところもあったけど、ホストファミリーといっぱい話せた。ジェスチャーで結構通じるよね。」「シャワー、なかなか温かくならなくて、つまみをいっぱいひねったら今度はものすごく熱いお湯が出ちゃって。シャワーの温度調節、上手にできた?」「ドアノブの位置、すごく高くなかった?」それぞれ、ホストファミリーと一緒に過ごすことで、たくさんの新しい経験をし、それを楽しんでいるようでした。全員がそろったところで、日本語アシスタントの金澤さんと、その日の予定を確認しました。金澤さんは日本の大学を休学し、マリスタ校でボランティアとして働いている方で、ホームステイ中、毎日お世話になりました。生徒たちだけでなく、私たち引率職員にとっても、とても心強い存在の方です。



その後、ホールへ移動して、ウェルカムアセンブリーが開かれました。7年生から9年生の生徒、職員が参加し、400人ほどの人数でした。その人数の前で、マリスタ校で日本語を学ぶ生徒2人が、英語と日本語で、立派に司会進行を務めていました。

校長先生から、温かなウェルカムスピーチをいただきました。「私たちは青木村の仲間を迎えることができる。青木村の中学生を受け入れることができるととても嬉しい。マリスタ校と青木中のつながりは20年にも及ぶ。それは大きな喜びで、このつながりを、今度は皆さんが、次の世代へとつないでいてほしい。」校長先生のスピーチを、マリスタ生が日本語に訳してくれるのを聞き、私も青木中生たちも、こうしてマリスタ校との国際交流に参加できた幸せと、そ



の意義の大きさをかみしめることができました。また、青木中の生徒たちは『ももたろう』の英語劇を発表しました。アクションの大きな場面では、マリスタ校の皆さんから歓声をいただくことができ、青木中の生徒たちも達成感を味わえたのではないのでしょうか。



さて、土日を含み、翌8月5日の朝、青木中の生徒たちはホストファミリーとおしゃべりしながら登校してきました。初日に、不安そうにホストファミリーの後についていったあの姿からは想像もできないくらい、それぞれのホストファミリーとの絆が深まっているようでした。その後、ソーセージ

ロール作りやブーメラン作り、各ホストファミリーの生徒の普通授業への参加など、たくさんのかんごを体験することができました。その夜には、ホストファミリーの皆さんと青木中の生徒が体育館に集まり、ブッシュダンスパーティーが開かれ、大いに盛り上がりました。学校から遠いご家庭もある中、私たち青木中学校のために、月曜の夜に学校に集まり、パーティーに参加していただいたこと、とてもありがたいことだと感じています。

こうしたマリスタ・サイオンカレッジの皆さんの心からの「WELCOME」のお陰で、私たちは本当に安心して一週間を過ごすことができました。オーストラリアの皆さんの「WELCOME」の心は、日本の「おもてなし」の心と似ているのかもしれませんが、来年度は、私たちが受け入れる番です。どんなことができるのか、今から楽しみです。このような貴重な体験をさせていただけたのは、マリスタ・サイオンカレッジの皆さんの温かいホスピタリティと、保護者の皆さん、青木村の皆さんのご協力のお陰です。本当にありがとうございました。



黒板ジャック

8月23日（金）に青木小学校に武蔵野美術大学生3名が訪れ、今回で5回目になる黒板ジャックが行われました。

岸本 佳奈子さん（芸術文化学科 2年）
今、自分の中ではフラミンゴがブームで、以前、村の美術館へ来た時のゲリラ豪雨後の雲がとてもきれいだったので、その様子を絵にしてみました。



渡部 萌乃さん
（視覚伝達デザイン学科 2年）
鳩が大好きで、日差しの中にある鳩が表現できたらよいと思って描きました。

松井 悠さん（芸術文化学科 2年）
子どもの時に海水浴に連れて行ってもらった思い出の海と、歌川国芳の作品をイメージして波などを描きました。



残念ですが授業が始まる前に全部消します。



編集後記 オーストラリア訪問をきっかけに英語や外国に興味を持つ子どもたちがたくさんいます。この交流がこれからも長く続くといいですね。

今年度後期の「はつらつネットワーク参加団体活動計画表」を配布します。みなさん積極的にご参加ください。詳しくは各団体代表者、教育委員会へお問い合わせください。